



第145回バイオサイコシンポジウムのお知らせ

■ 高瀬堅吉 教授

(自治医科大学 医学部 心理学研究室)

“発達段階・性別特異的行動異常のメカニズム解明を可能にするトランスレータブル行動指標の提案-自閉症スペクトラム障害の生物心理機構破綻を解明する新たなアプローチ-”

日時:2016年4月15日(金)18:10~19:40

場所:慶應義塾大学三田キャンパス 研究室棟地下第1会議室

<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

【講演内容】

行動異常には特定の発達段階において男性または女性のどちらか一方に多く顕在化するものがあり、これは「発達段階・性別特異的行動異常」と呼ばれている。先行研究の多くは、発達段階・性別特異的行動異常を引き起こす原因が生物学的要因から社会的要因へと多岐にわたることを報告しており、当該行動異常の研究には生物・心理・社会モデルが採用されている。行動異常を引き起こす原因が生物・心理・社会のレベルで同定されれば、当該モデルに基づく理解は各レベルでの具体的な介入方法の提案につながる。しかし、原因同定に至るためには行動異常を呈した患者を対象とする相関研究では限界があるため、行動異常を実験的に引き起こして各レベルでの病因と行動異常との因果関係を確認する必要がある。この際、モデル動物を対象とした実験研究が有効な手段となるが、心理レベルでの病因を調べるためにマウスやラットで展開される行動実験はヒトのそれとは本質的に異なり、必ずしも有用な結果を生み出して来なかった。そこで、ヒトとマウスやラットをつなぐ行動指標(トランスレータブル行動指標)の開発が行動異常の介入法開発の加速化に際して求められている。本発表では、演者のこれまでの研究の紹介とともに、発達段階・性別特異的行動異常の中でも特に難治性である自閉症スペクトラム障害について、その生物心理機構破綻を解明するトランスレータブル行動指標を用いた新たなアプローチを提案する。